

兵庫県 の テントウダマシ
(兵庫県 甲虫 相資料 ・ 100)

高 橋 寿 郎

日本産テントウダマシ科に就いては中條道夫博士の名著“日本動物分類，偽瓢虫科”(1939)がありその当時の日本産の本科のものを全部図説されると共にそれまでの研究史をまとめられている。その後中條道夫，中根猛彦博士，木内盛郷氏による断片的な報文並びに中根猛彦博士による原色昆虫大図鑑による26種の図示(1963)が出ると共に最近になって佐々治寛之博士がこの類の再総括をされた(Mem. Fac. Edu. Fukui Univ., Ser. II, 46, 28, Part. 1, 1978., 甲虫ニュース, 46, 49~46, 52, 1980).

佐々治博士によると現在の日本産の本科の種類は6亜科 18属 42種ということになっている。このうち本州に産するのは5亜科，16属，30種である。中根博士は1981年に石垣島，奄美大島産の2新種並びに石垣島からの1新分布種を記録されている(北九州の昆虫，28巻，2号，P. 55-58, 1981)。従って日本産は45種と云うことになる。

生態に就いてもほとんど報告が無いのが現状である。僅に若干の幼虫に就いての報告が林，中村両氏によってなされている位である(ニューエントモロジスト，3巻，1号，P. 26-34, 1953)。

兵庫県産のこの類に就いては黒佐博士によって“日本産偽瓢虫類21種に就いて”と題する論文の中で神戸市を中心とした9種の本科のものに就いて検討を加えられたのがあるだけである(昆虫界，10巻，97号，P. 152-163, Pl. 2, 1942)(断片的，部分的には勿論若干の報告はあるが一)。

現時点での兵庫県産は，19種しか記録出来なく充分とは云えないが一応まとめておきたい。

Family Endomychidae

テントウダマシ科

Subfamily Mychotheninae

マルテントウダマシ亜科

佐々治博士により1978年にMychothenus属をタイプとして設立された亜科である(Mem. Fac. Educ. Fukui Univ. Ser. II, Nat. Sci, 46, 28, P. 8-12, 1978)。いずれも小形でテントウムシ科の小形のものに似る。腹部第1節に腿節線を欠くことや触角が長いことで容易に区別され日本から6属7種が知られている。佐々治博士によりほとんどの種の図説(1978, 1980)がある。またその内のMychothenus asiaticus ダエンテントウダマシに就いては幼虫の形態の図説もある(佐々治，1978)。残念なことに兵庫県にはこの亜科のものは2種しか知られていない。小形故注意が足りないのだろうと思う。

Genus Idiophyes Blackburn, 1895

コマルガタテントウダマシ属

1. *Idiophyes niponensis* (Gorham, 1874) コマルガタテントウダマシ

本種は Gorham 氏が Nagasaki から *Symbiotes* 属で記載された種である (氏は Common at Nagasaki in rubbish heaps in winter: probably widely distributed in South Japan と書いている。Ent. Monthly Mag., Vol. 10:225-226, 1874).

1920年 Arrow 氏は *Exysma* 属に移され (Trans. Ent. Soc. Lond., 1920:25). 1953年に Strohecker 氏によって *Idiophyes* 属に移された (Genera Insectorum, Fac. 210 Endomychidae. 1953:25).

日本では中條博士 (日本動物分類, 偽瓢虫科, P. 181-182, 1939) と佐々治博士によって図説されている (1978, 1980). 分布は本州, 四国, 九州。

県下での産地もほとんど知られていない。まだまだ調べて見なくてはならない種である。

産地: 川西市若宮 [仲田, 1980]*: 相生市三潁山 (6 exs., 28-IV-1974).

2. *Geoendomychus* sp.

三原郡福良から記録されている種。佐々治博士によるとこの亜科に属するいずれかの種と考えられると述べておられる (1980).

産地: 三原郡福良 [久松, 1973].

Subfamily Mycetaeinae ホソテントウダマシ亜科

Genus *Leistes* Redtenbacher, 1845 イソホソテントウダマシ属

3. *Leistes decoratus* (Gorham, 1887) イソホソテントウダマシ

Gorham 氏により本州の柏木及び九州のオヤ山産で *Panamomus* 属で記載された (Proc. Zool. Soc. London, 1887, P. 648, pl. liii, f. 10). 中條博士の図説 (1939). 中根博士の原色による図説 (1980) などがある。Strohecker 氏によって (1953) *Leistes* 属に移された。上翅は中央前後, 会合線中央に大きな黒紋を装うのでよくわかる種であるが筆者未採集。分布は本州, 四国, 九州。

産地: 美方郡扇の山 [高橋, 1976].

Subfamily Stenotarsinae ムクゲテントウダマシ亜科

Genus *Stenotarsus* Perty, 1832 ムクゲテントウダマシ属

* 産地の所で [] の中のものは記録の引用, () の中のものは筆者標本所有のもの。

4. *Stenotarsus chrysomelinus* Gorham, 1887 チャバネムクゲテントウダマシ
Gorham氏により本州の一内及び奈良産で記載された種である (Proc. Zool. London, 1887, P. 644, pl. Iiii, f. 1, 1887). 中條博士(1939), 中根博士(1963), 佐々治博士(1980)の図説がある。

兵庫県下からは今迄記録が無く少い種のように思う。

産地：神崎郡大河内町砥ノ峯 (lex., 15-VII-1977).

5. *Stenotarsus internexus* Gorham, 1887 クロスジムクゲテントウダマシ

本種はGorham氏により九州の長崎, 柏木産で記載された種であり (I. C., 1887), 黒佐博士は生駒氏が神戸市東灘区本山町の電燈に飛来したのを採集された標本並びに御自身が摩耶ケーブル高尾駅付近の草原の石の下で採集されたものでもって解説をしておられる (1942). この摩耶産の標本を佐々治博士は最近再び図説しておられる (1980). 筆者は未採集である。

産地：神戸市東灘区本山町 [lex., 4-IV-1938, 生駒採集, 谷口, 1942], 摩耶山 [lex., 4-IV-1938, 谷口採集, 谷口, 1942, 佐々治, 1980].

Genus *Ectomychus* Gorham, 1887 ケブカテントウダマシ属

6. *Ectomychus basalis* Gorham, 1887 カタベニケブカテントウダマシ

Gorham氏により本州の河内, 宮ノ下, 栗ヶ原及び北海道札幌産標本で記載された種である (I. C., 1887). 中條(1939), 中根(1963), 佐々治(1980)各博士の図説がある。

特徴的な斑紋で区別は簡単である。分布は日本全般だが四国からの記録が無いとのこと。

枯木, *Poria* (チャアナタケなど)から発見されると云うが筆者未採集。

産地：川西市笹部 [仲田, 1978].

7. *Ectomychus musculus* (Gorham, 1887) クロモンケブカテントウダマシ

Gorham氏により九州長崎と本州柏木から *Stenotarsus* 属で記載された (I. C., 1887). 中條博士はこの種と次の種の *nigriclavis* の卵円形の2種を触角の形状と前背板側溝, 横溝の形状を根拠に *Stenotarsus* 属から *Ectomychus* 属に移された (Trans. Nat. Hist. Soc. For. 28巻, 182号, P. 394-406, 1938). 本種も中條(1939), 中根(1963), 佐々治(1980)各博士の図説がある。分布は本州, 四国, 九州。

茸, 薪(そだ)から採集される。上翅は赤褐~暗黄褐色上翅中央は黒色大斑を存するのでわかりやすい種である。県下で余り産地が知られていない。

産地：川辺郡猪名川町槻並 (lex., 2-VII-1978). 宍粟郡音水 (lex., 20-VII-1969).

8. *Ectomychus nigriclavis* (Gorham, 1873) チャイロケブカテントウダマシ

本種はGorham氏により産地は明記されていないが "In rubbish heaps: probably

occurs throughout the islands"として *Stenotarsus* 属で記載された (Ent. Monthl. Mag. IX, P.206-207, 1873). その後同氏は九州, 長崎を産地として記録している (I. C., 1887). 分布は本州, 九州である。本種も中條 (1939), 中根 (1963), 佐々治 (1980) 各博士の図説がある。

原記載にも塵埃の堆積せる中より得たとあり, 本山産も塵埃中に見出したものであると。筆者の採集したのは積み重ねられていた材木をのけて採集した。余り多くいる種のようにでない。

産地: 川辺郡猪名川町槻並 (lex., 4-V-1979). 神戸市本山 [lex., 18-VII-1988, 谷口, 1942], 山の街 (lex., 7-VI-1969).

Genus *Saula* Gerstaecher, 1858 キイロテントウダマシ属

9. *Saula japonica* Gorham, 1874 キイロテントウダマシ

本種は始め Gorham 氏により *Saula nigripes* Gerstaecher? として Nagasaki. "Distributed in Nipon and Kushiu" を産地として記録され (Ent. Monthl. Mag. ix, P. 206, 1873), その翌年本種として記載された (I. C., P. 224, 1874). その記載の中で "It is common" Mr. G. Lewis" in South Japan by brushing and beating in summer, but I have not seen in from Hokkaido" とある。

現在の知見では一般に良く知られた種で北海道から九州まで分布して西南日本では普通種と云われている。多くのテントウダマシ類がキノコや朽木で採集されるのに対してこの種は樹木生葉上に生息し, 幼・成虫共にカイガラムシを捕食していて特にヤノネカイガラムシの有効な天敵であると (佐々治, 1980). 幼虫の形態については佐々治博士の報告がある (Kontyu, 46巻, 1号: 24-28, 1978). 図説も多くされている。

兵庫県下では余り普通にいるとは思われないが調査が不十分なのかも知らない。

多井畑産は常緑潤葉樹の一種 (椎?) を叩いて得たとあり, サクラの葉裏に発見されるとも云われている。原記載に樟の葉を食害すると記されているが恐らく葉上から得られただけであろうと述べられている (佐々治, 1980)。

産地: Hyogo [Ohta, 1931]. 神戸市摩耶山 [Gorham, 1887], 多井畑 [谷口, 1942]. 太山寺 (2 exs., 6-V-1957, 3 exs., 3-V-1967). 相生市三濃山 (lex., 3-V-1974, lex., 18-V-1974, lex., 16-VI-1974). 氷上郡 [山本, 1958].

Genus *Danae* Reiche, 1847. ダナエテントウダマシ属

10. *Danae orientalis* (Gorham, 1873) トウヨウダナエテントウダマシ

本種は Gorham 氏によって Hiogo 産 2 頭の標本に基いて新属 *Coniopoda* を設立され, この

種を記載された (*Distributed in Nippon and Kiushin* とも記されている, 1873)。その後同氏は更に九州長崎及び一内と神戸とを産地に挙げ日本産は早春 haystack-refuse の中に見出される由を附記されている (1887)。

現在では *Danae* 属に取扱れている。北海道, 本州, 四国, 九州に分布している種である。兵庫県下での産もほとんど知られていない。六甲山麓産のものは早春石の下から見出されたとのことである。

産地: Hyogo, Kobe [Gorham, 1873, 1887, Ohta, 1933], 六甲山麓 [谷口, 1942]。

Subfamily Eumorphinae

オオテントウダマシ亜科

Genus *Lycoperdina* Latreille, 1807

ツヤテントウダマシ属

11. *Lycoperdina* (*Golgia*) *castaneipennis* Gorham, 1874

クリバネツヤテントウダマシ

Gorham 氏によって日本産2頭の標本 (Mr. G. Lewis leg.) で記載された (1874)。その後同氏は日光, 佐渡島及び長崎を挙げられ之等の中である種の茸から得られたものがあると付記された (1887)。中條博士は G. Lewis 氏が日光及び佐渡島で採集された3頭の標本で図説された (1939)。中根博士の図説もある (1963)。分布は本州, 九州である。

兵庫県下では淡路島の諭鶴羽山では割合採集されているが余り他では個体数は多くないようである。それと山地帯での記録が全くない。摩耶山からの記録は *Calvatia craniformis* (ノウタケ) から採集されたものであるとのこと。

産地: 三原郡諭鶴羽山 [久松, 1973]。神戸市摩耶山 [谷口, 1942, 柴内, 中畔, 1950], 藍那 (1♀, 14-VI-1978)。

12. *Lycoperdina* (*Golgia*) *dux* Gorham, 1873

フチトリツヤテントウダマシ

本種は兵庫の Maizan, hills (摩耶山) において Puffballs (或る種の茸) から得られた標本で記載された (1873)。その後同氏は横浜を産地として追加し (1887), 太田勇愛氏は Hokkaido (Iwamisawa, Nopporo), Honshu (Chuzenji) を記録された (Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. Sapporo, 30巻, 4号, P. 226, 1931)。中根博士の図説もある (1963)。分布は北海道, 本州, 四国である。

兵庫県下では目下の所芦屋市, 神戸市内にのみ知られているが須磨妙法寺でピットホールトラップ法で割合採集出来るので落葉下などには広くいるような気がする。

本種の終令幼虫に就いて林, 中村両氏の報文がある (ニューエントモロジスト, 3巻, 1号,

P. 31, Tab. I. II, 1953).

芦屋市の記録は冬季池畔に堆積した枯葉の中に見出したものであり、摩耶山の谷口氏の記録は *Calvatia craniformis* (ノウタケ) を食していたものであると。

産地：芦屋市内〔谷口, 1942〕. Maizsan, hills Hyogo〔Gorham, 1931, Ohta, 中條, 1939〕, 摩耶山〔谷口, 1942〕, 神戸市須摩妙法寺(2♀♀, 11-XI, 1978, 1♂, 7-XII-1978, 2♀♀, 25-IV-1979)。

13. *Lycoperdina* (*Gorgia*) *manderinac* Gerstecker, 1858

セグロツヤテントウダマシ

本種は Gerstecker 氏が香港産で記載された種である (Monogr. Endomychid., P.212, 1858). Gorham 氏は長崎で記録 (1873) し, 更に長崎, 兵庫, 苫小牧を追加された (1887). 中條博士は G. Lewis 氏採集の長崎産1頭と台湾産3頭その他でもって図説をされた (1938). 中根博士の図説がある (1963). 分布は北海道, 本州, 四国, 九州, トカラ諸島, 台湾, 中国である。

本種は古く Hyogo の記録はあるが現在では川西市, 西宮市, 神戸市に分布は知られているだけである。他の地域にもいると思われる。神戸市内では前種よりも多いように考えられる。灘区内で *Lycoperdon gemmatum* (キツネノチャブクロ) から採集されたものがあり, また谷口氏の記録の内多くは石の下に見出したものであると。須磨区内妙法寺産は総てピットホールトラップ法で採集したものである。

林, 中村両氏により第5令幼虫が図説されている (ニューエントモロジスト, 3巻, 1号, P. 30, Tab. I, II, 1953)。

産地：西宮市大和〔仲田, 1978〕. 西宮市香櫨園〔谷口, 1942〕. Hyogo〔Gorham, 1887, Ohta, 1931〕. 神戸市本山村, 灘〔谷口, 1942〕, 須磨・妙法寺(1♂, 11-XI-1978, 1♂, 7-XII-1978, 3♀♀, 26-I-1979, 1♂, 22-II-1979)。

Genus *Ancylopus* Costa, 1854

ヨツボシテントウダマシ属

14. *Ancylopus pictus asiaticus* Strohecker, 1972

ヨツボシテントウダマシ

本種は斑紋の変異が色々あるようで従来 *Ancylopus melanosephalus* (Olivier, 1808) なる学名が使用されていたが1972年 Strohecker 氏は "The Genus *Ancylopus* in Asia and Europe" (Pacific Insects, 14巻, 4号, P. 703-708, 1972) なる論文を発表し, 種 *A. pictus* (Wiedemann, 1823) のもとに産地別に6亜

種に別けられた。そして日本産は模式産地が中国福建省の *subsp. asiaticus* Strohecker とされた。この亜種は中国、トンキン、台湾、日本に分布し日本の中に I. J. E. Lewis 氏採集の Kobe産が掲げられている（この辺の経緯は佐々治博士が詳しく述べておられる、1980）。

日本では本州、四国、九州、対馬、南西諸島に産して普通に見られる種である。図説も多くある。兵庫県下では普通に産する。冬季石下等に集団越冬中のものに遭遇することがある。

一般に地上の倒木下、塵埃下、石ノ下或は雑草の根際等に棲息している。終令幼虫は林、中村氏により図説されている（ニュー・エントモロジスト、3巻、1号、P. 29-30, Tab. II, 1953）。

上翅上の黒色部が変化するので変種名を与えられているのがあるが兵庫県産にはそれ程顕著な変化は見られないようである。

産地：洲本市三熊山、山武牧場〔堀田、1978〕。川西市大和〔仲田、1970、1978〕。芦屋市〔谷口、1942〕。伊丹市、西宮市〔谷口、1942〕。神戸市神戸大学附近、神戸高校附近、布引、烏原、垂水、瓦木、本庄、魚崎、住吉、御影、本山〔谷口、1972〕、Kobe〔I. J. E. Lewis leg., Strohecker, 1972〕、保久良山（lex., 12-V-1978）、烏原（lex., 18-VIII-1942, 2exs., 27-VII-1975, 2exs., 14-IX-1981）、山の街（lex., 11-II-1965）、広野（lex., 15-IV-1956）、藍那（2exs., 27-VI-1978, 2exs., 27-IX-1978）。Hyogo, Harima, Akashi〔Ohta, 1981〕。高砂市〔谷口、1942〕。飾磨郡雪彦山（lex., 14-VII-1957）。神崎郡大河内町川上（lex., 2-VII-1977）。赤穂市天和（lex., 6-X-1974）。宍粟郡音水（2exs., 20-VII-1959, 4exs., 16-VII-1972）。氷上郡〔山本、1958〕。豊岡市虫陰、九日市〔高橋、1975〕。城崎郡香住佐津〔高橋、1975〕。

Genus *Mycetina* Mulsant, 1846 ムナビロテントウダマシ属

15. *Mycetina amabilis* Gorham, 1873 キボシテントウダマシ

本種は Gorham 氏により Nagasaki, Ipongi 産 3 頭の標本によって記載された種である（1873）。光沢の強い真黒な上翅に基部近くと後方に波形黄帯紋がある。原記載に使用した標本の 1 頭も後方紋が無いむね書いてあり、後方紋は消失するものもあり（f. *bumeropicta*）、全く無紋のもの（f. *takahashii*）もある。その後 Gorham 氏（1887）、太田氏（1931）により産地が追加され中條博士は九州、四国産で図説された（1939）。中根博士（1963）、佐々治博士（1980）のそれぞれ図説がある。分布は北海道、本州、四国、九州である。

兵庫県での産は余り多くいるように思われない。

産地：相生市三濃山（1♀、1-VI-1974）。宍粟郡赤西（1♀、23-VI-1979）、音水

(1♂, 3-VI-1975, M. Yuma leg., 1♂, 21-V-1979). 城崎郡三川山〔高橋, 1975〕. 美方郡扇の山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕.

16. *Mycetina anchoralis* Gorham, 1873 イカリモンテントウダマシ

Gorham 氏により Nagasaki, Hiogo, Yokohama 産で記載された (1873). 上翅にイカリ形の黒紋がある美しい種である。その色彩は変化すること。Gorham 氏は更に肥後, 和田峠, 下諏訪湖, 宮ノ下, 青森を産地に追加 (1887). 中條博士は本州, 九州の標本で図説された (1939). 中根博士 (1963), 佐々治博士 (1980) のそれぞれ図説がある。分布は本州, 四国, 九州で佐々治博士によると堆肥や古くなった薬屋根に多く見られると。

兵庫県下には広く分布しているようだが個体数がそれ程多い種だとも思われない。摩耶山に於てはシイタケ及び松に着生する一種の塊状多孔菌を食すと記録されている。

産地: 川西市大和〔仲田, 1978〕. 兵庫〔Gorham, 1873, Ohta, 1931〕. 神戸市御影, 摩耶山〔谷口, 1942〕, 下谷上 (lex., 11-IX-1979), 有馬 (lex., 20-VII-1962). 飾磨郡夢前町我孫子 (lex., 1-VIII-1980). 氷上郡〔山本, 1958〕. 城崎郡日高山〔高橋, 1976〕. 美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕.

17. *Mycetina laticollis* Gorham, 1887 ムナビロテントウダマシ

Gorham 氏によって "Kashiwagi, Nara, Maiyasan" 産でもって記載された (1887). 中條博士は上記基本標本の一部と九州若杉山産 1 頭で図説をされた (1939). 中根, 佐々治両博士の図説がある (1963, 1980).

前背板が巾広く, 長さの 2 倍以上あり, 側縁が弧状で前後に狭まることで区別がし易い種である。兵庫県下では摩耶山での記録以外ほとんど知られていない種である。

産地: 神戸市摩耶山〔Gorham, 1887, 谷口, 1942〕. 養父郡氷の山 (lex., 26-VII-1956, T. Takahashi leg., M. Chujo det. 標本中條博士保管)。

18. *Mycetina rufipennis* (Motschulsky, 1860) ベニバネテントウダマシ

Motschulsky 氏により *Endomychus* 属で記載された (Etud. Ent. IX, P.18, 1860). 基本標本の産地は北海道, 函館或はその近傍だろうとのこと (中條, 1939). Gorham 氏は G. Lewis 氏の採集品によって日光及び函館を記録すると共に *Phaeomychus* 属を設立してこれに属せしめた (1887). 太田氏は北海道野幌を加え (Jour. Facul. Agr. Hokkaido Imp. Univ., Sapporo, 30(4): 223-224, 1931), 中條博士は G. Lewis 氏の日光での採集品 3 頭と九州祖母山産 2 頭で図説された (1939). この種も中根, 佐々治両博士の図説がある (1963, 1980). 現在では Strohecker の主張している *Mycetina* 属の種として取扱われている (1951, 1953). 分布は北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布するが兵庫

県での記録は余りない。

産地：氷上郡柏原市上小倉〔山本，高橋，1962〕。宍粟郡音水（1ex., 13-VII-1958, 1ex., 20-VII-1969）。養父郡氷の山（1ex., 25-VII-1959）。

Subfamily Endomychinae テントウダマシ亜科

Genus Endomychus Panzer, 1795 テントウダマシ属

19. *Endomychus gorhami* (Lewis, 1874) ルリテントウダマシ

本種は G. Lewis 氏が Kawachi 産標本で記載された種で (Ent. Month. Mag. XI, P. 55, 1874)。その後 Gorham 氏 (1887), 太田氏 (1931) 等により産地が追加され、中條博士は各地産で図説された (1939)。この種も多くの図鑑に図説されている。日本特産種のように北海道、本州、四国に分布 (九州産は別亜種) していて、日本産テントウダマシ類中最も普通で上翅は藍紫色の光沢をもつ美しい種である。九州産ではこの光沢がなく点刻がこまかく不規則になることから subsp. *kyushuensis* Sasaji, 1978 として区別されている (Mem. Fac. Ed. Fukui Univ., 版 28, Part. 1: 25-26, 1978)。

兵庫県下でも茸から発見され、この仲間の中でヨツボシテントウダマシと並んで個体数の多く、分布の広い種であるが本種の方がより普通に産する。

本種の終令幼虫は林、中村氏により図説されている (ニュー・エントモロジスト, 3 巻, 1 号, 1953)。

産地：洲本市先山〔久松，1973〕。川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田，1970，1978〕。川西市能勢 (4exs., 5-XI-1977), 大和，笹部〔仲田，1978〕。神戸市六甲山〔2exs., 4-VIII-1965〕, 山の街 (1ex., 1-XI-1956), 金剛童子山 (1ex., 4-VI-1956), 谷上 (1ex., 7-V-1963), 鳥原 (13exs., 14-V-1972, 2exs., 26-V-1974, 4exs., 5-VI-1976, 1ex., 11-VII-1976), 藍那 (4exs., 22-V-1978, 5exs., 29-V-1978, 3exs., 14-VII-1978, 1ex., 7-IX-1978)。Harima〔Ohta, 1931〕。多可郡加美町三谷 (5exs., 29-IX-1974, 1ex., 13-IX-1975), 鳥羽 (3exs., 19-VII-1975, 3exs., 6-IX-1975)。神崎郡大河内町川上 (15exs., 18-VI-1977, 1ex., 3-IX-1977)。朝来郡 (1ex., 8-VII-1956)。相生市三濃山 (2exs., 8-VI-1974)。宍粟郡音水 (5exs., 20-VII-1959), 赤西 (5exs., 5-IX-1978)。氷上郡〔山本, 1958〕。出石郡出石町中村〔高橋, 1963〕。城崎郡城崎 (1ex., 25-X-1978)。養父郡氷の山 (1ex., 26-VII-1956, T. Takahashi leg., in M. Chujōs Coll.)〔高橋, 1975〕。美方郡扇の山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

以上兵庫県産テントウダマシ19種に就いてその分布を眺めて見た。全般に材料が少くもつき

め細かい調査をすれば種類数も増加するだろうし産地も増えるものと考えられる。まだまだ調査の序の口程度のことしかわからないのが現状だと考えている。

(15-I-1982)

能 勢 の 蛾

仲 田 元 亮

ガソリン発電機と白布と捕虫用ランプといった道具を、友人の車につみこんでもらって、何度か山の中へ出かけてみました。

おかげで、いくつかの蛾を手にすることができました。今回は、その中から、スズメガ科のものについてお知らせしたいと思います。

スズメガ科 Sphingidae

1. エゾシモフリスズメ *Meganoton scribae*

1980年8月9日、大阪府豊能町青貝山附近、捕虫用ランプ、1ex.

2. サザナミスズメ *Dolbina tancrei*

1979年7月21~22日、兵庫県猪名川町木間生(大谷)捕虫用ランプ、1ex.

1980年8月9日、大阪府豊能町青貝山附近、捕虫用ランプ、1ex.

1980年9月6日、兵庫県猪名川町上原水銀灯、1ex.

1980年4月27日、兵庫県川西市笹部(笹部駅)蛍光灯、1ex.

1981年8月22日、兵庫県猪名川町内馬場捕虫用ランプ、2exs.

3. ホソバスズメ *Oxyambulyx ochracea*

1980年8月9日、大阪府豊能町青貝山附近、捕虫用ランプ、1ex.

4. トビイロスズメ *Clanis bilineata tsingtauica*

1979年8月18~19日、大阪府豊能町青貝山附近、捕虫用ランプ、2exs.

1979年7月21~22日、兵庫県猪名川町木間生(大谷)捕虫用ランプ、1ex.

1980年7月5日、兵庫県川西市大和 ライト・トラップ、1ex.

1980年7月12~13日、兵庫県川西市芋生 捕虫用ランプ、4exs.

5. モモスズメ *Marumba gaschkewitschii*

1979年8月18~19日、大阪府豊能町青貝山附近 捕虫用ランプ、2exs.

1980年7月12~13日、兵庫県川西市芋生 捕虫用ランプ、1ex.